

第8回・銀座書齋入居ビル・清掃活動レポート

2019年2月12日(火) 実施

2019年2月27日(水) 提出

英語道弟子課程 弟子 M.U.

2019年2月12日(火)、第8回・銀座書齋入居ビル・清掃活動を
実施させていただきました。

生井先生に事前にお話を伺ったところ、当日は朝の7時から
ずっとレッスンが入っているとのことでした。そのため、箒と塵取り、
そして、バケツ2つを、先生が6階屋上の扉の前に置いておいて
くださるということ。また、清掃時間の9時から11時の間、

レッスン中であってもノックをすれば何度水を取りかえに来ても
構わないとおっしゃってくださいました。さらには、9時前から清掃を
始めても構わないともおっしゃっていただきました。

当日は、少し早めに第一号ビルに到着。6階まで上り
生井先生が早朝からご用意くださった清掃道具を目にしたとき、
ありがたい気持ちで胸がいっぱいになりました。

着替えを済ませ、まず、1階から3階の窓を、前回の先生からの
お言葉を思い出しながら、一つひとつ丁寧に開けた後、掃き掃除を
スタート。その後、少しでもレッスンのお邪魔をしないようにと、
自分なりに考え持参した、水で絞ったタオルを使い、拭き掃除を
始めました。そして、5時5分からのレッスンの方が帰られた後、
生井先生にご挨拶をし、バケツに水を汲ませていただきました。

語弊があるかもしれませんが、正直にお話しすると、今回の清掃活動中、私は何も考えていなかったように思います。

目の前のことをバシバシ込めて、丁寧に行おうと始めました。すると、いつの間にか夢中になり、我を忘れていました。今振り返ると、その場所、その時間的空間と、自分自身が一体化していたかのような錯覚さえ覚えます。

何かに集中しているとき、夢中になっているときは、そのことだけを一心に行っているので、そこに自分というものは無いと思います。私は、このことが「一物に命をほる」ということに繋がっていくのではないかと感じました。

私は再びよそ見をしてしまいます。よそ見を直すということは、時間を無駄にしているということ。「時間(命)の価値」「一物の価値」がわかっていないということ。そしてこれは、私自身、15の基礎条件を遵守できていないという証です。

私は、ローカルな位置にいて、ローカルなことをローカルな頭で考えているから、いつまでたっても「やる気」で留まっているのだと思います。

ガラスの天井のさらに遙か上にいらっしゃる、師・生井判幸先生に少しでも近づけるよう、「やる気」を「本気」に変え、「一物に命をほる」ということを学ばせていただいたこと、改めて感じました。

この度の清掃活動は、担当月とは別に、1階から3階までの階段清掃を行わせていただいた旨を生井先生にお伝えし、お許しをいただいた活動でした。

先生からは、「銀座書齋で学ぶ全この人々、銀座書齋にいては、このビル（第一はなぶせビル）を訪れる全この人々、そして私自身、誰にとってもよいこと、悪いことは一つもない」といった主旨のお言葉を頂戴しました。とても嬉しかったです。

「誰にとってもよいこと」を慎重に実践できるようになりたいと思いましたが、生井先生、この度も他では決して経験できない機会を賦予してください。ありがとうございました。